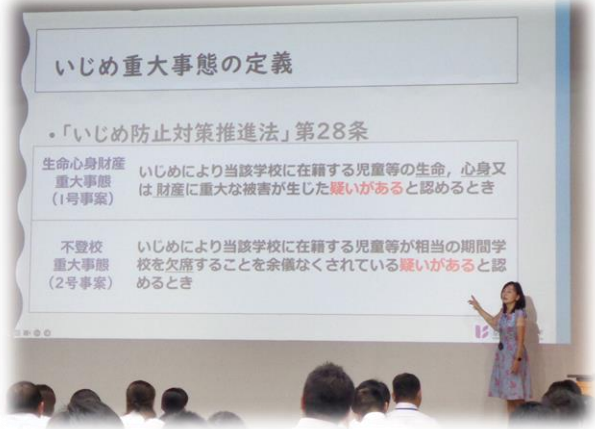


<第1回中丹はぐくみたい力育成会議>

いじめ防止に関わる組織的対応の在り方

7月7日（月）、中丹管内小・中学校の副校長・教頭を対象に、第1回中丹はぐくみたい力育成会議を実施しました。今回の会議では、組織マネジメントの視点から、児童生徒や教職員、保護者等にとって安心・安全な学校づくりに向けて、いじめ防止対策に関わる組織的対応についての協議を深めました。

当日は、京都教育大学 教授 片山紀子様をお招きし、今学校が取り組むべきことは何かを明確に御教授いただきました。本まなび通信にて会議での学びをまとめていますので、各校の研修等で御活用ください。



講義・演習「いじめ問題への組織的対応」より

「ほうれんそう」がいじめ重大事態のリスクを減らす



チーム学校の基本は、お互いに「ほうれんそう」をし合うこと

「ほうれんそう」が十分でないと、初期対応が適切にできず、こじれたり長引いたりして重大事態になることがある。

情報共有しやすい職員室づくりが必要

そのためには？

＝管理職自らの自己開示が大事＝

- 相手が不快にならない
- ビジョンを伝える
- 失敗や苦手なことを伝える

※管理職は、権威ある立場であることを認識する

II

情報が集まりやすく、いじめの未然防止や早期発見・早期対応につながる。

【参考資料】〈ジョハリの窓〉

	自分が知っている	自分が知らない
他人が知っている	開放の窓 自分も他人も知っている	盲点の窓 他人は知っているが、自分は知らない
他人が知らない	秘密の窓 他人は知らない、自分は知っている	未知の窓 自分も他人も知らない

開放の窓が狭いと…

どういう人か、どんなことを考えているか、何を目指しているかなどが分かりにくい。

開放の窓が広いと…

周囲の人は「ほうれんそう」がしやすい。

いじめ対応のポイント

- いじめかどうかは先ではなく、子どもがトラブルにより困っている状況があれば、学校として対応する。
- 重大事態に備え、学校はいじめ防止対策推進法や学校いじめ防止基本方針等を理解しておく。
- 正確な聴き取り、記録を行う。聴き取り後は、内容を子どもや保護者に説明する。聴き取りによって事実が明らかにならなかった場合も、分かったところ、分からなかったところを正直に伝えると、学校が対応していることが保護者に伝わる。

さらに

その1 ～聴き取りのポイント～

- 聴き取りの時間は「5分×年齢」が上限
(例) 6歳: 5分×6歳=30分
- 関係者から一人ずつ聴き取る。
- 聴き取りの始めに、「知らないこと、言いたくないことは言わなくてよい」と伝えておく。
- 「〇〇さんと何かありましたか」「はじめから最後まで全部話してください」など、自由に話せるような質問(オープン発問)にする。

※途中で指導を挟まない。

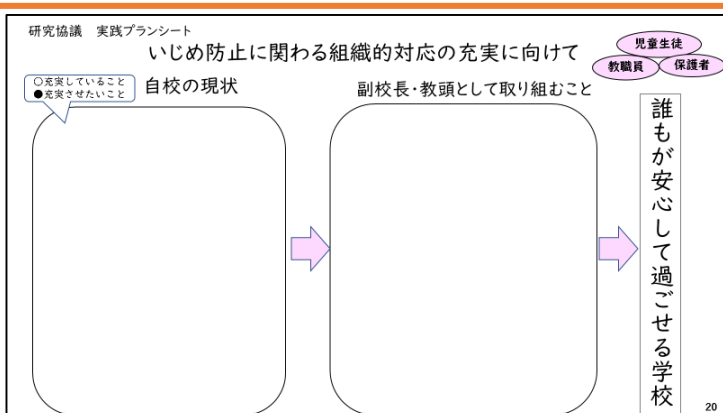
その2 ～記録のポイント～

- 聴き取り担当者と記録者を記載しておく。
- 日付だけでなく年号も記載し、5年間は保存する。
- 5W1H(いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように)があるか。
- 推測が入っていないか。(客観的事実を正確に)
- 自分(先生)が有利になるように書いていないか。
- 教職員の対応や行動がきちんと書かれているか。
- 第三者が読んで内容が分かるか。

研究協議

「いじめ防止に関わる組織的対応の充実に向けて」

研究協議では、「実践プランシート」を用いて、自校の現状を振り返り、副校長・教頭として取り組むことを考えました。



立てたプランをもとに、誰もが安心して過ごせる学校を目指して、取組を進めていただいています。第2回の会議では、各校での取組を交流する予定です。

まとめ

いじめ対応に関わる組織力をあげるには ＝いじめを見逃さない

- いじめの認知の理解を学校全体のものに
- いじめを認知した際の動きを全教職員で共有
- 情報共有のしやすい職員室の環境づくり

誰もが安心して過ごせる学校

児童生徒

教職員

保護者